

## 衆議院議員比嘉奈津美先生 インタビュー



福岡歯科大学  
成育小児歯科学分野講師  
(同窓会会計理事)

馬場 篤子 (12期)

私は、歯周病学分野大学院生の森 南奈先生(31期 同窓会広報理事)と二人で、平成25年6月4日(火)、衆議院議員比嘉奈津美先生(8期)の事務所にお邪魔させていただきました。インタビューの後は議員会館内を案内して頂き、大変有意義なひと時でした。今回はインタビューの一部を報告させていただきます。

馬場： 本日は、同窓会が発行しております「季節風」に先生のインタビュー記事を是非掲載させて頂きたく、先生の貴重なお時間を頂戴し誠にありがとうございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

比嘉： はい、よろしくお願ひします。今日は、「かりゆしウェアの日」なんです。沖縄のアロハみたいなものを着て会議場に行ってみました。沖縄は多くの方々がこの「かりゆしウェア」なのです。うちのスタッフも着ています。

馬場： 先生とてもお似合いですね。TVのニュースなどでもよく拝見させて頂いております。沖縄らしくてとても素敵です。クールビズで良いですね。

比嘉： 涼しくて良いですよ。やっぱり省エネですね。

馬場： では、色々伺って参りたいと思います。

最初に、先生がなぜ歯科医師を、そして福

岡歯科大学を選んだのか、経緯をお聞かせ願えますか？

比嘉： 実は、身内が医療関係の仕事をしておりましたので、自然と医療関係の職業に興味を持ちました。そんな中で、「流れ」といいますか、なんとなく私もそうなるのかなという感じがありました。私が幼少の頃の沖縄は特に歯科医師が少なかったのです。夏休みなどは子供たちが、朝早くから並んでいたものです。沖縄はやはり特殊な環境であり、医療が足りていなかったのです。まだそのころは沖縄返還がされておらず、時代の背景があるのかも知れませんね。そして、福岡歯科大学を選んだ理由ですが、同じ九州ということで、行く様な流れになりました(笑)。

馬場： なるべくして歯科医師の道を選ばれたのですね。次に、女性歯科医師の置かれている環境についてのお考えを聞かせて頂きたいと思います。

比嘉： 今私が一番重要だと思うのは、女性歯科医師がどれだけ働きやすい体制が整えられるか、という事です。私は、全国初の女性で県歯副会長を務めさせて頂きました。会議に出てみますと、100人位の参加者がいる中



比嘉先生のオフィスにて

で女性は私1人なのです。近年母校の学生さんは、4割以上が女子学生なのですよね。その割には、働いている、実際に職に就かれている女性歯科医師は少ないような気がします。また、歯科医師会に加入される方も少ないと思います。組織の中でしっかりと声を上げるためには、まずは組織に参加し、皆で一つになるという事が大事だと思います。

しかし女性には、結婚・出産・育児という大仕事があります。今後の日本の状況を鑑みますと、出来ることであれば2人位のお子さんを産んでもらう必要があると思います。出産・育児をしながらも、女性が復職する際に子供を預けられる所を準備する、あるいは旦那さんにも育児に係ってもらうという体制を整えることも重要かと思います。私は、これに関わる政策なども一生懸命やらせて頂いております。

馬場： 医師会では既に女医バンクというシステムがあり、そのおかげで産休明けに復職しやすい環境が整っています。うらやましいです。

比嘉： この様なシステムを周囲がしっかり作り上げることが出来れば、女性が色々な場面で羽ばたいたり、あるいは組織の役職に就いたりすることも可能になると思います。

馬場： 本当にそうですね。では次に、先生は今まで歯科医師としてご活躍されておられましたが、国会議員になられ転身されて生活環境など、何か変化した事はございますか？

比嘉： 私はもともと色々な知識を吸収することが好きで、歯科医業の傍らワインなどの勉強をしました。極めたいと思ったら可哀しいですが、一度知りたいと思ったらとことんやってしまう性格で、たぶん知識を収集するのが好きなのです。

国会議員になってからも、党の勉強会がそれは沢山あります。朝8時からの部会に行くと最新の情報がどんどん提供されます。そこでわからない事が有れば、国立国会図書

館などで情報を収集する事ができます。今までは欲しい情報を自分であちこちから集めてこないといけませんでしたが、今では提供して頂ける環境にあることに大変感謝しております。様々な判断を迫られるというのが政治家であり、そのためにはやはり、知識を集約し冷静に対応するというのが大切だと思っております。

馬場： 責任は重いですね。

比嘉： 歯科医療に関しては、これから大事な部門ですよと議員の先生方にいつも話させて頂いております。医療関係以外の方は「口腔ケア」と言う言葉さえご存じありません。私は、口腔機能の重要性、噛むこと・噛めることの大切さという事を伝えていくのがこれからの仕事だと思っております。

馬場： 歯科業界と政治の架け橋となって頂いているのですね。ありがとうございます。では今後、比嘉先生が福岡歯科大同窓会に期待することは？

比嘉： 先だって、同窓会でお祝いして頂いた際にも申しましたが、愛すべき、愛してやまない同窓であり、あの「背振山」を見て勉強した人間はどれだけ探しても我々しか存在しません。その同じ空気、同じ大学で学び、過ごしてきた歴史を後輩にも伝えて行きたいと思っております。私どもの大学には、先輩が後輩の面倒をよく見るという良い校風が有ると思っております。私をこの立場に押し上げて頂きましたのも、先輩方のおかげであると思っております。私の場合、どこに行って



左から森理事、比嘉先生、馬場理事

## 素敵な先輩を訪ねて永田町へ

も福岡歯科大学の先輩達がいらっしやったのですよ。九州の集まり、歯科医師会の集まりなど何処に行っても一期生、二期生の先輩方がいらっしやって「あんた福岡歯科大学よね」と声を掛けて下さって、暖かい気持ちで迎えて下さいました。東京へ行ってもやはり同窓生の先生達がいらっしやって、私は一人じゃないんだということを感じました。本当に、同窓生お一人お一人に心から感謝しています。

馬場： はい！同窓会は全力で先生を応援しております。

森： 福岡歯科大学生時代にこれは楽しかったとか、大人になってあのときもっとうこうしていたら良かったとかっていう事はありますか。

比嘉： こうしていたら良かったとかっていう事はありますが、学生時代は学年で女子が全体の1割程度でしたのでみんなとお友達でしたよ。一生お付き合いできる仲間ですね。

馬場： では、最後に先生の今後のビジョンをお聞かせ願えませんでしょうか？

比嘉： 私は現在国会議員をしておりますが、つい半年前までは歯科医師として診療しておりました。ですから歯科医師の喜びも痛みもよくわかっております。だからそれを少しでも改善出来るような体制を作っていきたいと思っておりますし、最後の最後まで医療人でありたいと思います。患者さんに説明したことは守っていくというのが医療人の務めで、政治の世界でも説明責任を果たすということを実行していきたいと考え、これからも人の痛みを少しでも和らげるお手伝いを頂きたいとおもっております。

馬場： 先生、本日はお忙しい所、誠にありがとうございました。先生の今後のご活躍を同窓生一同祈念いたします。



福岡歯科大学  
歯周病学分野大学院  
(同窓会広報理事)

森 南 奈 (31期)

同窓生の皆様こんにちは。

現在国内留学で、東京女子医科大学の先端生命医学研究所にて研究しております森と申します。6月某日、8期の比嘉奈津美先生に同窓会広報として取材へ行ってまいりましたのでご報告したいと思います。

比嘉先生への取材は、夕方からでしたので当日、私は普段通り実験後永田町へ行きました。取材に行くために、普段よりかしこまった服装の私を見て研究所の先生方に何かあるのかと尋ねられるので「OGの方が、衆議院議員になられたので取材に行くんです！」と答えるとどの先生方も大変驚かれていました。当研究所は、再生医療において最先端の研究所なので厚生労働省や文部科学省などの官僚の方々が頻繁に来られますし、国会議員の先生や大臣、つい最近では内閣総理大臣も見学に来られました。そのような、環境でも国会へ母校から議員が出ることが減多にないことで素晴らしいことなのかということを感じました。

衆議院議員会館は、国会議事堂のすぐそばにあり地下でつながっていて、あちこちに警備員が配置されていて手続きの際に自分の顔をモニタリングされているときはセキュリティーがとても厳しく驚きました。しかし、比嘉先生の部屋に行くと、アロマオイルのとても甘い香りが部屋中に広がっ



スパークリングワインで楽しく談笑



ていて終始、穏やかな雰囲気の中での取材でした。取材を通して私が感じたことは、歯科医師から国会議員へと華麗なる転身を遂げられた比嘉先生ですが、自分が知りたいこと興味を持ったことを徹底的に追求し熱い向上心を持ちながら前進するという生き方は変わらず凛とした素敵な先輩だなということです。毎日開催される勉強会に積極的に参加し、様々な知識を貪欲に吸収しようとする姿勢に感銘を受けました。

選挙にあたり多くの同窓生からの応援は大変心強かったそうです。同じ校舎で歯科医師を目指した仲間だからこそ共有できるものがあり共感できます。福岡から単身、多くの先生のお力添えにより現在、四苦八苦しながらも研究している私にとっても新たな世界に飛び込み活躍されている先生とお話することが出来てとてもいい刺激になりました。

## 京都大学国内留学を終えて



福岡歯科大学咬合修復学講座  
口腔インプラント学分野大学院

山口 雄 一 郎 (32期)

福岡歯科大学咬合修復学講座  
口腔インプラント学分野の

山口雄一郎と申します。2012年5月1日から1年間、福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野から京都大学臓器再建応用分野に国内留学をさせて頂きました。

京都大学ではラットの脂肪から抽出する事が出来る間葉系幹細胞を利用した骨再生に関する研究を行ってきました。研究の基礎的な部分に関して勉強していくにつれ研究を行う事の難しさや自分の力量不足を痛感させられる1年でしたが、実りの多い充実した時間を過ごす事が出来たと実感しています。

研究室が京都大学iPS細胞研究所の向かい側に位置していた為、山中伸弥先生がノーベル賞を受賞された時には中継車や報道陣が次々に押し寄せて



研究室の皆さんと

来るのを窓から眺めていました。スケールの大きさから目の前で起きている事が、遠くの事の様に感じていました。

京都の街並みはとても美しく、特に桜の季節と紅葉の季節には色々な場所を観光しました。しかし、夏の暑さと冬の寒さは想像を絶するもので、改めて違う土地で生活している事を実感させられました。一緒に京都大学へ留学した同じ医局の柳先生には実験の色々な面で協力して頂き大変感謝しています。福岡歯科大学に戻ってからも、実験に関して相談しながら研究を進めており、今後も互いに切磋琢磨していければと思います。

今回の国内留学では周りの人達に助けて頂いてばかりでした。これからは京都で学んできたことを福岡歯科大学において、さらに深く追求し研究成果を出していく所存です。

最後に、本留学にあたりご援助頂いた福岡歯科大学ならび同窓会の皆様に感謝の意を表するとともに、城戸寛史教授ならび口腔インプラント学分野関係者皆様の、この一年間の温かいご支援に厚く御礼申し上げます。



清水寺にて

## 同窓生対象オープンキャンパスに 親子で参加して



長崎県開業  
田中靖彦 (12期)

同窓生の皆さんこんにちは。  
5月26日(日)、同窓生対象の  
オープンキャンパスに二人の息子と一緒に参加い  
たしました。大学周囲の様変わりに驚き、道に迷い  
ながら久しぶりの大学訪問でした。

説明会は昔懐かしい901講義室で行われ、田中理  
事長の福岡歯科大学が目指す教育理念、高嶺同窓  
会副会長の明るい歯科界についての話をして頂き  
ました。大変興味ある話で参加した学生さん達よ  
り聞き入ってしまいました。高橋教授のユーモア  
を交えた学校・入試説明会后、施設見学、実習(パ  
ソコンを使用したインプラント設計)、昼食会、在  
校生との歓談、個別入試説明会と充実した1日で  
した。福岡歯科大学の在校生の皆さんの丁寧で穏和  
な対応は充実した施設、設備、実習機材だけでは  
なく、先生方の医療人育成教育の成果だと思いま  
す。本当に気持ちが伝わる対応でした。

息子の進路については不明ですが(私もそうで  
したが)、今回のオープンキャンパス参加で歯学部  
への進学も一つの選択肢になったのかもしれませ  
ん。同窓生の皆さん、来年是非参加してください。

最後になりますが、これからも福岡歯科学園の  
更なる発展、飛躍を祈念いたしております。



シミュレーション実習用患者型ロボット「田村明日香」

## 福岡歯科大学同窓会主催 第30回臨床セミナー報告

### 「スタートアップ審美歯科治療」 —オフィスホワイトニングと CAD/CAMを体験しませんか—

学術理事 粉 浩一



平成25年2月24日(日)、福岡歯科大学口腔医療セ  
ンターにおいて「スタートアップ審美歯科治療」  
と言うテーマで、第30回臨床セミナーを開催した。

今回のセミナーは、オフィスホワイトニングの  
実習とCAD/CAMの体験セミナーで、オフィスホ  
ワイトニングの実習は7台の照射器を使い、ホワイ  
トニングの実習班とCAD/CAM体験班に分けて研  
修を行った。

最初に福岡歯科大学口腔顔面美容医療センター  
の大野智子先生にホワイトニングについての講演  
と実習についての説明をしていただき研修に入っ  
た。

オフィスホワイトニングの実習は二人一組にな  
り、口腔医療センターのユニットを使用させてい  
ただいた。各組に咬合修復学講座の先生がインス  
トラクターとして指導の下、実際の薬液を使い相  
互実習を行い、術者と患者の両方を体験してい  
ただいた。CAD/CAMを体験する班は、歯科医院で  
のシュアが大きいセレックについての講演と実際  
に同機を使い光学印象の体験を行った。

オフィスホワイトニングのセミナーは実習機材  
の関係で定員が28名と少ないため、本年度もオフィ  
スホワイトニングの実習セミナーを平成26年の1月



から2月ごろに行う予定にしておりますので、その折はご参加の程よろしくお願ひいたします。



## 御逝去のお知らせ

### 〔大学関係〕

元歯科理工学教授(特別会員)  
堀部 隆 先生 平成25年6月13日逝去

### 〔同窓生〕

小原 洋 先生 (8期) 平成25年1月16日逝去  
吉田公典 先生 (1期) 平成25年4月2日逝去  
和田守雄 先生 (4期) 平成25年5月23日逝去  
西郷吉隆 先生 (7期) 平成25年6月1日逝去  
坂田擁一 先生 (9期) 平成25年8月19日逝去  
河井 新 先生 (4期) 平成25年8月20日逝去

## 第66回 九州歯科医学大会 福岡歯科大学同窓会懇親会

同窓生の皆様、こんにちは。今年の九地連は、鹿児島で開催されます。

平成23年、博多～鹿児島間の新幹線が開通し初めての開催となります。鹿児島も近くなり、博多から最短1時間17分、新幹線沿線の方でしたら日帰りも可能となりました。ベストセラー、百田直樹の「永遠の0」の中に鹿児島の特攻基地がでてきます。特攻基地といえば知覧が有名ですが、鹿屋市にある海上自衛隊は、その昔、特攻基地だったところです。しかも、当時の滑走路が残っています。その自衛隊にある資料館には知覧に負けないくらいの資料が展示されています。パンフレットに使った写真は、その資料館にある零戦です。この零戦は、鹿児島の近海に墜落した零戦を集めて再現したものです。お時間が取れるのでしたらぜひ足を運んでいただきたいところです。

鹿児島のおいしい食べ物と焼酎を準備して皆様をお迎えます。同窓会会員が「本当にきてよかった」と思えるように日々活動しております。ご参加のほどよろしくお願ひします。

平成25年8月吉日

福岡歯科大学鹿児島県同窓会  
「福歯会」会長 要 光



17:30 支部長会 サンロイヤルホテルにて  
19:00 懇親会 サンロイヤルホテルにて  
22:00 二次会 天文館にて  
会費 15,000円(二次会費込み)

連絡先 福歯会専務理事 平川俊洋 099-227-2825